



Newsletter No.90

2022年11月25日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

<http://www.labornetjp.org>labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

「がけっぷち」から這い上がるとき —レイバーフェスタ 2022 に参加しよう—

前回のニュースレター発行は6月15日でした。その後に参院選があり、安倍銃撃事件・統一教会問題・大軍拡などめまぐるしい状況が続いています。参院選では、改憲勢力が議席を伸ばしました。野党全体の後退はいなめませんが、それでも立憲・共産党・れいわなど、まともな個人議員は勝ち抜いてきました。「がけっぷち」と言われた社民党はむしろ投票数を増やし、政党要件を守りました。リベラル左翼はたしかに追い込まれていますが、なんとか踏ん張れたのは、護憲・民主主義を求める日本民衆の少なからぬ存在でしょう。

そこにバクロされた「統一教会」と自民党の癒着問題。ひさびさに「良心派ジャーナリズム・市民労働運動・野党」が手を組んで、安倍国葬反対運動を大きく盛り上げました。それは世論を二分し、安倍政権8年間のウソをだれの目にもあきらかにしたのです。しかし、岸田政権が今やろうとしているのは安倍を引き継ぐ、軍事大国化・戦争路線であり、戦争政策に反対する市民労働運動を抑え込むことです。関西生コン・韓国サンケンでも異常な弾圧が続いています。デジタル化による「超管理社会」で人々の頭の中まで支配しようとしています。

喫緊の山積する問題が私たちの前に押し寄せています。そうした状況に少しでも「対抗」するべく、レイバーネットTVは月2回に増やして、メディア発信力をより高めていきたいと思っています。ことしも12月24日には、21回目のレイバーフェスタを新しい会場で開催します。ぜひお越しください。「がけっぷち」から這い上がり、「平和・民主主義・人権」を取り戻す反転攻勢の時代を一緒につくっていきましょう。(M)

＜レイバーフェスタ 2022 新会場で開催＞

ことしのレイバーフェスタは、12月24日(土) 東京・田町の新しい施設「港区産業振興センター」で開催します。設備の整ったところで、ライブ配信も行います。プログラムは以下のとおりです。2022年は安倍国葬で大騒ぎでしたが、本当に国民が追悼したいのは憲法を具現化した「中村哲」さん(2019年没)でしょう。そんな思いをこめてこの映

画「荒野に希望の灯をともし」を選びました。(詳細はチラシを参照ください)



●レイバーフェスタ 2022

12月24日(土) 13.00～19.00

東京・港区産業振興センター小ホール

プログラム

- 13.00 映画「荒野に希望の灯をともし」(中村哲ドキュメント・90分)
- 14.40 音楽第一部「憲法寄席見に来来～時事替歌」(50分)
- 音楽第二部 ノレの会・プレカリアートユニオン(15分)
- 16.05 公募川柳入賞作発表(20分)
- 16.25 講談「鼓(つづみ)が滝」(甲斐淳二・25分)
- 16.55 短編映像「安倍国葬反対運動ドキュメント」(15分)
- 17.10 三分ビデオ特集 20本一挙上映
- 18.55 終了

＜サーバー臨時カンパ「40万円」のお願い＞

レイバーネットの活動の中心は「ウェブサイト」です。2001年設立以来、21年が経ちました。情報量・活動量も増加の一途で、サーバーはしばしばダウンしていきました。またクリックしても「重い・遅い」といつも言われてきました。10年前に一度サーバーを入れ替えましたが、それも限界に達しています。

そこで今回思い切って、DELLの新規サーバーを導入することにしました。設定費用を入れて40万円がかかります。物価高で厳しい状況だとは思いますが、レイバーネットのネット態勢を万全にするために、あなたのご協力を切にお願いします。同封の郵便振替をご利用ください。(事務局)

〔活動報告〕

●レイバー映画祭 2022 「厳しいなかで希望」

7月23日、レイバー映画祭2022が東京・全水道会館が開催された。10時開始から17時の終わりまでほぼ満席で、200人以上が参加した。「どの作品も泣けた」「真実を知った」とは、二次会で聞かれた声だった。沖縄の石垣島の住民のたたかいを描いた『島がミサイル基地になるのか』から始まり、『プラットフォームビジネス「自由な働き方」の罠』『あの空に帰ろう！

JAL 争議団 12 年目のたたかい』『日本に飛べ 連帯の道を～サンケン闘争』『ここから～「関西生コン事件」と私たち』『テレビで会えない芸人』と6作品が上

映されたが、どれも厳しい日本の現実が描かれていた。それでも、めげずに闘いを続ける人たちの生の姿を伝える映像だった。

今回初めて公開された『ここから～「関西生コン事件と私たち』』は大好評だった。関西生コン事件という暴力抗争のイメージが付きまとっていたが、それを打ち破る作品だった。シングルマザーの主人公の生コン運転手の松尾聖子さんが、労働組合に出会い、女性の働く権利を獲得し、生き方を変え、弾圧とたたかっている姿に、観客は胸を揺さぶられた。上映後、松尾聖子さんが登壇すると、割れんばかりの拍手が起きた。石垣島、JAL・サンケン・生コンなど、やられっぱなしの崖っぷちの映像だったが、それはまさに今の日本を象徴していた。厳しい、でも希望がある。そんな思いを共有した「レイバー映画祭」だった。



●レイバーネット夏期合宿～映像をベースにタププリ語り合う貴重な場

8月19日から21日まで、レイバーネットの夏期合宿と「秩父事件」フィールドワークがあった。参加者は多彩で延べ18人が参加した。場所は埼玉県「武州長瀬」のSCATセミナールーム「毛呂分室」。

一日目の最初のプログラムは松原明さんによる「メディア実践講座」で、この日は初めてビデオカメラを手にした二人の参加者向けに、30分の集中講座があった。その後、福島からの参加者、鶴沼久江さん、坂口美日さん、黒田節子さんから、福島の現状のお話を伺う。自公政権に変わった時の「復興の加速化」といわれ、ビックリ。やはり心配した通りの切り捨て。除染に次ぐ除染のもたらすものは何か？ゼネコンが除染でさんざん儲けたこと、そして被災者切り捨てが加速していることなどが語られた。終わって、夕食はバーベキューを楽しんだ。夜は、山形県白鷹町の映画『出稼ぎの時代から』を上映。秋以後に上映会方式での上映始まる。1960年代の出稼ぎの当時のスライドを基にし、現代の農村問題を描いた映画だった。

2日目の8月20日は、土田修さん推薦の映画『テロリストは僕だった』（監督＝大矢英代さん）を上映。午後からは、ハンセン病の実態を詩人の塔和子さんを中心に記録した貴重な記録映画『風の舞』（監督＝宮崎信恵さん）を見る。涙が止まらない。一人で見ていると、オイオイ泣いたかも！上映後の宮崎さんの話がよかった。

恒例川柳の時間は、参加者のほぼ全員が国葬と統一教会の兼題二題で参加。なかなかユニークで楽しかった。（笠原真弓）



レイバーネット TV がリニューアルしました

レイバーネット TV は 2010 年に開局し 12 年目になった。当初、運動圏では初めてのネットテレビとして、先駆的役割を果たしてきた。しかしいまや YouTube 全盛になった。しかも、社会政治情勢も大きく変わっている。レイバーネット TV も「番組のマンネリ化、スタッフの負担過多、財政的負担の大きさ」などがあり、ことし7月に見直すことにした。そのなかで打ち出したのは、1、企画担当制 2、1テーマで60分 3、月2回放送、などで「アクティブ・ラジカル・シンプル」をスローガンに掲げた。一番大きな変化は、配信場所を「郵政共同センター」に固定し機材を常備することで、人的財政的負担が軽減したことである。こうして9月よりリニューアル番組がスタートした。放送したのは以下のとおり。

・第171号放送 2022/9/14 安倍国葬とメディア（永田浩三・望月衣塑子・土田修）

・第172号放送 2022/9/28 安倍国葬と原発（鎌田慧・吉沢正巳・堀切さとみ）

・第173号放送 2022/10/12 希望の給食～食と農がつむぐ自治と民主主義（白石孝・大野博美）

・第174号放送 2022/10/26 大軍拡と東アジアの平和（杉原浩司・比良恵子・石井信久・清末愛砂）

・第175号放送 2022/11/9 立ち上がるフランスの人たち／韓国サンケン尾澤孝司裁判

まだ試行錯誤の段階だ。いろいろ挑戦しながら、「ネットテレビ」の老舗として「アクティブ・ラジカル」にやっていきたい。今後の予定は、176号（11/23）「アマゾンの労働問題」、177号（12/7）「東京五輪・弾圧事件」、178号（12/14）「映画と本で振り返る2022年」です。ぜひあなたも企画や技術スタッフとして、参加しませんか。

レイバーネットの歴史をたどる

<第1回「2001年黎明期」>

以下は、ポール・ジョバンさん（パリ第7大学・日本の労働運動研究者／レイバーネット会員）が、2009年に松原明さんにインタビューしたものです。その現物をレイバーネット国際部が入手したのは昨年でした。長文の文書でしたが、それをカナダの長谷川澄さんが翻訳してくれました。発表する機会を逸していましたが、貴重な内容でもあるので、ニュースレターで順次、発表していきたいと思えます。

●だれがどのようにして始まったのですか？

ポール：松原さん、あなたはレイバーネット日本の創設者の一人ですね。それに、私がほとんど毎日、レイバーネットから受け取るたくさんのメールから見ると、松原さんは、今も非常に活躍中のメンバーであるわけです。ひとつ、このサイト創設のころを振り返って、お話いただけますか？

松原：そうですね。確かに私は、創設者の一人と言ってよいでしょう。レイバーネット日本が作られたのは、2001年の2月、「はたらくものの情報ネットワークを作る」という呼びかけに応じた約60人が集まって、設立集会をした時です。こういうネットワークを作る考えというのは、2000年秋に全港湾の書記長の伊藤彰信さん、その頃すでにインターネットを使っていた安田幸弘さん、アジア太平洋労働者連帯会議の高幣真公さん、ビデオプレスの佐々木有美さん、それに私の間で芽生えていました。

1997年に伊藤さんは、全港湾の組合運動の一環として、闘争中のリバプール港湾労働者たちへの支援に携わりました。伊藤さんは英語が強かったし、すでにインターネットを使いこなしていましたから、それを駆使して、リバプールの闘いと、日本の労働運動をつなげることができたのです。

私の方は、1989年に自主制作集団「ビデオプレス」を立ち上げました。そして、国鉄民営化に反対する鉄道労働者の闘いの記録を撮り、作品を作っていました。同じ時期、サンフランシスコでは、スティーヴ・ゼルツァーさんが「レイバービデオプロジェクト」を設立し、韓国では、金明準さんが「レイバーニュースプロダクション」を創設していました。私たちは、同じ方向に向かっていました。そして映画のお陰で、国境を越えて意義深い交流をすることができました。

安田さんはコンピューターの専門家でした。彼は市民運動のためのインターネットプロバイダー、JCA-NETの創設メンバーの一人です。それから、安田さんはかなり昔から、韓国社会と韓国の労働運動に強い関心を持っていました。高幣さんは以前、市川誠総評議長の補佐を務めていた人です。その後は、総評左派の活動家たちをつなげた雑誌「労働情報」の中心の一人となっていました。

だから創設メンバーたちは、それぞれ全く違った世界に属していたんですが、共通項があったのです。それは、労働運動に対する関心と新しいメディアに惹きつけられていたことです。インターネッ

トを闘争の手段に使うという考えは、我々にはとても自然に出てきたのです。そして、そういう時に英国レイバーネットの創設者、クリス・ベリーとの出会いが東京であったのです。2000年秋にクリスと会ったことが、「日本にもレイバーネットをつくろう」という我々の考えが一挙に具体化することになりました。

ポール：どこでどうやって、松原さんは皆と出会ったんですか？皆さん、同世代なんですか？

松原：高幣さん伊藤さんと私は、1968年の全共闘・ベトナム反戦などの左翼運動の世代です。高幣さんと伊藤さんは、ずっと労働運動の活動家でしたが、私は、ベトナム戦争に反対する運動（ベ平連）に関わったのが始めて、その後は、中小企業の労働運動やさまざまな市民運動に関わってきました。一番若い安田さんについてですが、彼は全然、左翼ではありません。トレンドイナ市民無政府主義者だと私は思っています。

●何をめざしていたのですか？

ポール：創設した時の到達目標は、どんなことだったんですか？

松原：サイトに書かれているように、“インターネットを使って情報交換をすることで、労働運動を活性化したい、働くものが自分たちの権利を向上するのを助けたい”ということです。年会費は3千円に決めました。2001年2月の設立集会には、韓国のレイバーネット代表も呼びました。

ポール：なぜレイバーネット創設者であるアメリカ人たちを招待しなかったんですか？

松原：韓国の方が航空券が安かったからです（笑）。安田さんが韓国レイバーネットと強い繋がりがあったことと、韓国の労働運動・ネット活動が活発だったからです。2000年の時点で、韓国レイバーネットは一日約2000人のアクセスがあったんです。日本では始めは100人くらいだったんですから。韓国レイバーネットに追いつこうというのが、我々の目標でした。

ポール：松原さん個人としては、どんな目標を持っていたのですか？

松原：私個人のことを言えば、インターネットとか新しいメディアが、労働運動を変えていく可能性を持っているということに引き付けられましたね。設立集会で、私は「労働運動は、暗い、ダサイ、硬いイメージから脱皮して、明るい、楽しい、やわらかいものになるんだ！」と呼びかけました。ネットはそこに到達するための理想的な道具に思えました。

*連載 続きをお楽しみに。



新会員紹介

●映画館居酒屋「キノ・キュッヘ」を30年

佐々木 健

国立市で、キノ・キュッヘと言う映画館居酒屋をやっている佐々木健と言います。この11月で30年になります。1970年中旬、秋田の高校卒業後上京して映画の専門学校に入りましたが、商業映画は向かないと思い8ミ



リカメラを買って、自分で映画を作り始め現在にいたっています。

1984年から当時組合が自主管理していた精神病院の栄養課で働き始め、組合の活動と映画製作を並行して行っていました。1986年から87年にかけて東アジア反日武装戦線さそりのメンバーで、無期懲役を受けた黒川芳正さんが獄中で監督した「母たち」の獄外での製作をしました。

ずっと自主制作、自主上映活動をしていた仲間たちの協力もあって1992年にキノ・キュッヘをオープンし、インディーズ映画とドキュメンタリー映画を中心に映画の上映をしています。レイバーネット関係では、松原明さんと佐々木有美さんが制作した「人らしく生きようー国労冬物語」や「死んだるヒマはないー益永スミコ 86歳」、そして堀切さとみさんの「原発の町を追われて」、土屋トカチさんの「アリ地獄天国」などを上映しました。多摩地区で自主上映のスペース探して居る方はご相談下さい。

今年3月より「大人食堂」も月一のペースで行っています。当日は三多摩合同労組の協力で労働相談も行っています。また最近では、加害の歴史を残そうと思い、出身県秋田花岡での中国人強制連行「花岡事件」をドキュメンタリーにまとめようと活動しています。

キノ・キュッヘでは、利き酒師でもある私がセレクトした日本酒を中心に泡盛など各種の蒸留酒も取り揃えております。国立においでの際は是非ふらりと立ち寄って下さいね！

●フランスの生活で日々考える

石原秀子

初めまして。私が日本を離れフランスに渡ったのは1987年でした。その頃の日本社会はバブル最盛期で、うかれた日本からフランスに着いて先ず驚いたのは世界中からやって来た難民の多さでした。特に87年暮れよりパレスチナでは「インティファ

ダ」が始まり、翌年にはパレスチナからの難民がパリの街に溢れていました。反戦デモや賃上げデモ等デモやストが日常の生活の一部となっているフランスは、バブル期を過ぎて来た私には衝撃的でした。

南北問題に関心を持ち、1年の留学予定を変更して、多くのアフリカの植民地を所有していたフランスでアフリカ史、特にエチオピア言語・文化史の勉強をする事にしました。マスターの論文では「1930年代における日本・エチオピア外交史」をテーマとしました。福島原発事故以来、反原発運動を飛幡祐規さん達と共に「よそものフランス」で活動しております。日本やヨーロッパの移民・難民問題にも深い関心を持っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

INFORMATION

●むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞

反戦・平和の思想を訴え続け、100歳を超えるジャーナリストとして全国的に活動してきたむのたけじさんは、2016年に亡



くなった。かれの思いを広げていこうと始まったのが「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」。今回で5回目だが、レイバーネットからの推薦があり「レイバー映画祭」としてエントリーすることになった。賞の発表は2023年春。結果はともかく、レイバーネットの活動が注目されていることはうれしいことだ。

●新時代アジアピースアカデミー（NPA）のメディア講座

オンラインを活かした「新時代アジアピースアカデミー（NPA）」の講座運動が活発だ。ことし10月からはじまった第8期（2023年1月まで）では、政治・経済・文化・歴史など多岐にわたっているが、レイバーネットと協力する形で「メディア講座」も始まった。7月の安田幸弘の「メディア・アクティビズム」講座に続いて、12月には松原明の「3分ビデオ」制作工房が行われる。だれでも映像を駆使する時代、2日間の集中講座で「あなたもメディアアクティビスト」になれます。問合せ→Tel 03-6272-5073 / Fax 03-6272-5074 メール info@npa-asia.net

レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 560名

ウェブアクセス 1日 6,000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円

(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本

銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所

普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578